

# 前近代日本史史料に関わる人名情報の収集・蓄積 に関する考察

山田 太造<sup>1,a)</sup> 井上 聡<sup>1,b)</sup>

**概要:** 東京大学史料編纂所では前近代日本史・史料学研究に関わる 30 もの DB を公開している。これらの DB の多くは人物に関わるデータを含んでおり、史料テキスト内に出現した人名・その人物の別称・官位、肖像・写真、花押、さらに人名辞典などがあり、多様である。本研究では、人物に関わる多様なデータを収集・蓄積するために構築している「人名リポジトリ」について紹介する。

**キーワード:** 日本史, 人名, データベース, 情報統合

## A Study of Collecting Personal Name from Pre-modern Japanese Historical Materials and Its Accumulating

TAIZO YAMADA<sup>1,a)</sup> SATOSHI INOUE<sup>1,b)</sup>

**Abstract:** Historiographical Institute of The University of Tokyo has published about 30 databases related to Pre-modern Japanese history and historical studies. The data concerning a person is stored in most of the databases. There are various types of data such as a personal name which appeared in a text of a historical material, an alter name/a role name, a portrait/a picture, a kao(花押), a biographical dictionary, and so on. In the paper, we introduce personal name repository which enables to collect and accumulate a variety of data related to a person.

**Keywords:** Japanese history, personal name, database, information integration

### 1. はじめに

東京大学史料編纂所（以下、本所）は、1997 年より前近代日本史・史料学に関するデータベースをウェブ公開を始め、現在ではその数は 30 にも及ぶ [1]。それらのデータベースの種類としては史料目録、本文、画像、図像、写真、文字、人名、地名など多岐にわたる。本所が抱える最大の事業は史料集編纂であり、これを効率的に遂行するために蓄積してきたデータをデータベースとして管理し、これを公開している。そのため、本所が公開しているデータベースは編纂を行っている研究者自身が、編纂および研究のた

めに、格納されているデータを最も必要としており、また今後の編纂・研究をシームレスに行うため、データ自体の作成・格納を研究研究者が行っている。編纂物自体も日本史研究もしくはこれ以降の編纂に役立てるため、データ作成を行い、データベースとして公開している。

これらのうち、人物もしくは人名に関わるデータを有していないデータベースは皆無である。例えば、所蔵史料目録 [2] では史料の著者名や原蔵者、日本古文書ユニオンカタログ [3], [4] では差出・宛所などに人名情報がある。一方で、中世記録人名索引 [5]、花押カード、忘形見、大日本 7 編人名カードのように人物情報自体を格納したデータベースも存在する。

本研究では、上記の課題を解決するために、さまざまなデータベースに散在している人名・人物データを、ゆるやかに統合し、格納する人名リポジトリについて紹介する。

<sup>1</sup> 東京大学史料編纂所  
Historiographical Institute The University of Tokyo  
a) t\_yamada@hi.u-tokyo.ac.jp  
b) inoue@hi.u-tokyo.ac.jp

人名	対応項目	和暦年月日	DB	DBでの識別子	出生	編集
伊達 義満	伊達義満	応永7年9月3日	大日本史料7 編人名カード	00032874	寺門事務次郎 書大日本史料 大 日本史料7...	編集
伊達 義隆	伊達義隆	応永7年9月12日	大日本史料7 編人名カード	00032875	春日神社文書 大 日本史料 大日本 史料7...	編集
伊達 義成	伊達義成	応永7年11月5日	大日本史料7 編人名カード	00032876	寺門事務次郎 書大日本史料 大 日本史料7...	編集

図 1 人名リポジトリにおける検索画面

図 2 人名リポジトリにおける登録画面

## 2. 人名リポジトリとその現状

### 2.1 人物データの現状

本所データベースにおける人物に関するデータの形式はデータベースごとに異なっているため、同一のデータ形式で人物に関するデータを取得することは困難である。また、いわゆる人名辞典としてのデータベースは、本所データベースには存在しない。

散在しているデータを一元的に扱うことができれば、史学研究・史料集編纂が効率化すると考えられる。例えば、本所データベースにて“足利義満”で検索すると5,899件の検索結果が得られる。足利義満は、室町殿、北山殿のように別称があり、古記録・古文書などの一次史料の多くでは、“足利義満”と記されていることはほとんどない。先ほどの検索結果には別称での検索を行う機能はないため、先ほどの検索では別称を考慮した結果は得られない。また、同名の人物が存在する。例えば、“伊達政宗”で検索してみると6,203件の検索結果が得られる。この内、古文書フルテキストの検索結果を見てみると、「42 伊達政宗安堵状写」(『伊達家文書 1巻 54頁』)という古文書がヒットしていることがわかる。また応永九年十一月卅日の古文書であることがわかる。これより、安土桃山から江戸時代に活躍した伊達政宗とは別人であることがわかる。さらに、データベースでの人名の表記についてもさまざまである。例として“足利義満”の表記をみってみる。大日本史料総合における人名データは“足利義満”と記されているが、中世記録人名索引では“義満, 足利”と記されている。このため、足利義満について本所データベースを網羅的に検索したいが、単に“足利義満”で横断検索しても、その検索要求を

満たすことは困難である。

### 2.2 人名リポジトリとその機能

本所における人名リポジトリは、さまざまなデータベースから人物データ、特に人名情報に主眼を置いて再作成したデータを格納することができる。現在、中世記録人名索引、『公卿補任』、『柳菴補任』、および『尊卑分脈』の一部のデータを格納しており、データ数としては419,662である。図1は人名リポジトリにおいてキーワード“足利義満”で検索したときの結果を示す。この人名検索では、さまざまなデータ項目を検索対象とするフリーワード検索以外にも、項目ごとに検索条件を設定することができる詳細検索機能も有している。また特定のデータベース、もしくはデータ源を対象とした検索も可能である。

図2は図1で示した検索対象となるデータを登録するための画面である。データ形式に関係なくデータベースに格納されているデータをそのまま格納することができる。つまり、データ形式の不均質さをそのまま扱うことができる。ただし、人名リポジトリでは、人名データに関して共通項目を設定しており、いかなるデータベース・データ源であっても共通して入力する必要がある。本稿ではこの共通項目を人名情報共通項目と呼ぶ。人名情報共通項目としては次のとおりである。

- 人名(必須)。史料におけるそのものの表記など。
- 対応項目。別称・官位など。
- 和暦年月日。
- 時期。この人名の有効であろう時期。
- データベース(必須)。このデータが格納されている

<b>中世記録 人名索引</b> 事項名 和暦年月日 出典名 巻 頁 対応項目 画	<b>忘形見</b> 人名 没年 所属・帰属 出典1 出典2 出典3 大日本史料 史料総覧 史料綱本 備考1 備考2	<b>7編カード</b> 人名 和暦年月日 出典1 出典2 出典3 出典4 要件 備考	<b>大日本史料総合 (綱文)</b> 管理番号 編/冊/頁 綱文和暦 綱文 区分 人名 官職 地名 事項 備考	<b>維新史料綱要</b> 区分 編/冊/頁 和暦年月日 綱文内容 人名 官職 地名 事項 備考1 備考2	<b>公卿補任</b> 西暦コード 和暦年月日 本官 位 姓 家名 名前 年齢 C・Dの説明 Kの説明 兼官 注 現・散 父 母	<b>柳營補任</b> 姓 名 官途名 通称 役職名1 役職名2 役職名3 任年月日 任干支 転免年月日 転免干支 異動内容 人事情報 史料名 掲載冊次 掲載頁 柱の巻数 柱の役職名
<b>花押カード</b> 人名 史料群名 和暦年月日 文書名 位署書 影写本架番号 写真帳架番号 その他の架番号 大日本史料 大日本古文書 平安遺文 鎌倉遺文 刊本 備考	<b>花押彙纂</b> 人名 人名注記 史料群名 巻 所蔵地 和暦年月日 文書名 位署書 影写本架番号 備考	<b>肖像情報</b> 像主名 著者名 論文名 掲載誌 請求番号 標題 写真 提供者 論及 種別 所蔵者 作者 製作年代 法量 着彩 材質 賛	<b>肖像画模本</b> 架番号 標題 模写時原本所蔵者 模写年月日 寸法 材質 彩色 賛文 像主名 像主情報 画像情報 周辺情報	<b>近世史編纂支援 (索引型)</b> 管理番号 見出し 原文表記 メモ 出典	<b>大日本史料総合 (索引)</b> 事項 編 冊 補 頁 行 対応項目 参照 備考1 史料表記 画	<b>ユニオンカタログ</b> 管理番号 和暦年月日 文書名 底本名 底本種別 架番号 編 冊(巻) 頁(丁) 分類 篇目 文書番号 差出 宛所 詳細内容 原蔵
人名 対応事項・史料での表記 出典情報・DBでのID 時間情報 その他						

図 3 各データベースにおける人名情報共通項目

データベース名。

- データベースでの識別子。
- 出典。主に典拠史料。

各人名情報共通項目は、基本的には各種データベースの各データ項目にマッピングし、その値はマッピングされた項目のデータをそのまま流用する。各データベースにおける人名情報共通項目の例を図 3 に示す。赤で示した項目は人名、紫は対応項目、青は和暦年月日、橙は出典データを示す。

人名リポジトリではデータベースごとの各データ項目もそのまま格納することができる。これらのデータは、図 2 に示すように、その他の項目に格納していく。データベースごとにデータ項目名が異なるため、そのデータ項目の値とともにデータ項目名もデータとして格納する。これにより、柔軟なデータ入力が可能になる。

### 2.3 人名リポジトリの特徴と課題

人名リポジトリにより、状況に応じて必要となる人名データを取得することが可能になる。例えば、図 4 に示すように、大日本史料総合の検索結果にある“足利義満”か

ら人名リポジトリ内のデータへリンクすることは容易である。データベースごとにデータのタイプを設定することが可能であるため、このとき、編年、辞典・索引・系図、花押、史料目録、テキスト、のように、ユーザが必要とするデータを提供することが可能になる。また、中世記録人名索引のように人名と別称のセットを格納してあるデータベースを用いるとある時期にある人物はある名称で呼ばれていた、ということが把握できる。これにより、別称が有効な時間範囲を把握することが可能になるため、別称での検索、単に別称での検索が有効であるだけでなく、時間範囲も考慮した検索、が実現可能になる。

ただし、課題は多くある。すべての本所データベースのデータを格納していないため、格納の処理を進めていく必要がある。また、前述の特徴を満たすための整備はまだ終わっていない。人名同定を行うためのルール等の実現方法はこれから行う予定である。

### 3. おわりに

本稿では、本所で現在構築中である人名リポジトリについて紹介した。人名に関するデータベースとして、人名一

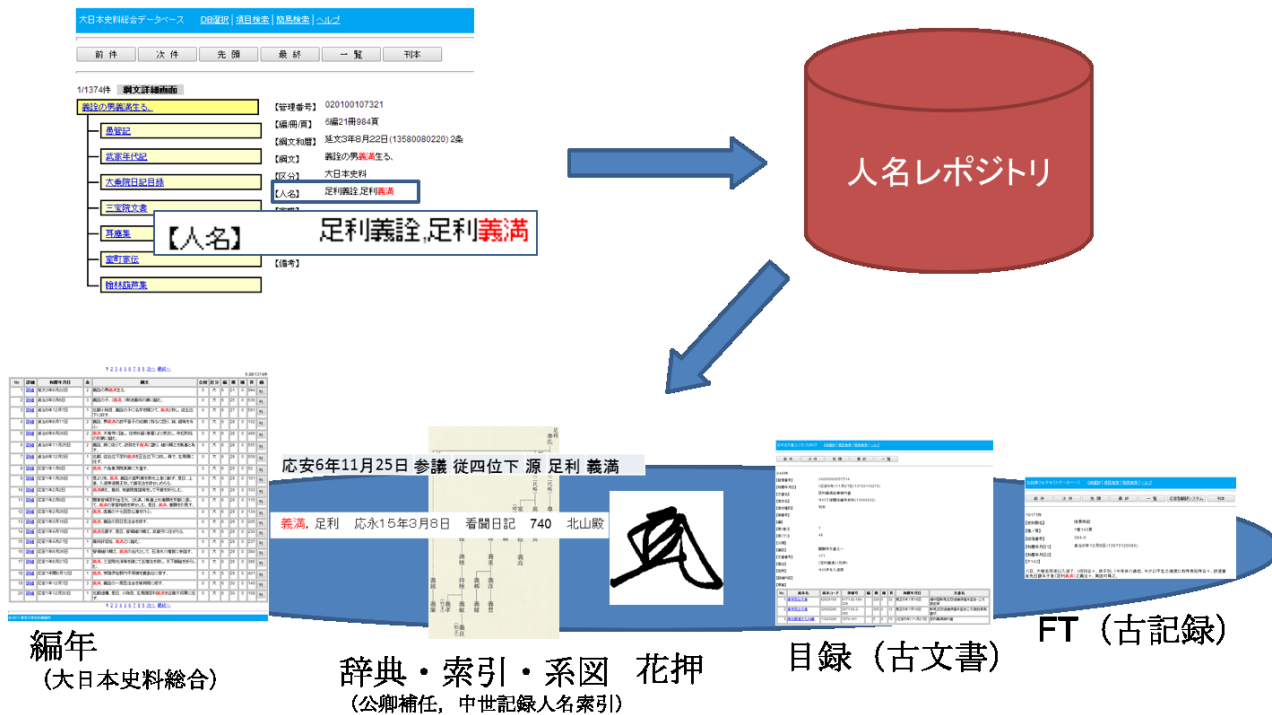


図 4 人名データを用いたデータ提示

覧基盤システム [6] がある。『古事類苑』の人名を基盤として作成した人名情報をベースに, nihuINT[8] および国文学研究資料館・国立国語研究所において作成された人名情報をデータベース化しており, 人名辞典に近い形式でのデータ作成がなされており, また nihuINT への人名検索も可能にしている。Web NDL Authorities[9] は国立国会図書館が維持管理する典拠データについてサービスしている。標目という項目で名寄せを行っている。これは人名にも適用されており, 著者名だけでなく, 歴史的人物も対象であり, 少なからずそのデータが存在する。本所人名リポジトリでは, 一般によく知られていない人物, さらには研究者・編纂者であって人物同定が困難である人物までもが対象である。しかしながら, 人物・人名の典拠が不明である場合は扱わない。上記のデータベースとはかなり性格が異なる。この人名リポジトリは, 人物に関するデータベースとしては, 一見利用しにくく, また粗いように感じられる。しかしながら, 編纂を続けていくうえで, 人物データはさらに蓄積されていく。また, 編纂の際に明らかになった人名同定等に関するデータをさらに蓄積し, さらには人名同定ルールを追加していくと本所データベースの検索結果向上に繋がると考えられる。さらには, オープンデータ化するなど, 本所外データベースでの利用も可能とし, 本所データベース以外でも利用していただければ, さまざまな各種データベース・システムにて編纂における知識をふんだんに利用されていくと考えている。

謝辞 本研究の成果の一部は, 日本学術振興会科学研究

費若手研究 (B) (26730167), 基盤研究 (A) (26240049), および基盤研究 (A) (15H01722) の助成を受けたものによる。

#### 参考文献

- [1] 東京大学史料編纂所: 史料編纂所データベース, 入手先 (<http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/>) (参照 2015-12-28)
- [2] 加藤友康: WWW サーバによる日本史データベースのマルチメディア化と公開に関する研究, 入手先 (<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/kato/>) (参照 2015-12-28)
- [3] 近藤成一: 日本古文書ユニオンカタログの構築, 東京大学史料編纂所研究成果報告書 (2008).
- [4] 山田 太造, 近藤 成一, 野村 朋弘: 日本古文書ユニオンカタログ-古文書情報を網羅するための“古文書リンケージ”プラットフォーム-, 研究報告人文科学とコンピュータ (CH), 2012-CH-93(1), pp.1-8(2012).
- [5] 東京大学史料編纂所: 中世記録人名索引データベース, 入手先 ([http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships\\_help/ISIDE/W04/](http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships_help/ISIDE/W04/)) (参照 2015-12-28)
- [6] 人間文化研究機構: 人名一覧, 入手先 (<http://mgr.nihu.jp/nihuKB/meta-pub/G0000093person>) (参照 2015-12-28)
- [7] 清野 陽一, 山田 太造, 高田 智和, 古瀬 蔵: 人文科学データベースからの人名一覧表示システムの構築, 研究報告人文科学とコンピュータ (CH), 2014-CH-103(4), pp.1-6(2014).
- [8] 人間文化研究機構: 統合検索システム nihuINT, 入手先 (<http://int.nihu.jp>) (参照 2015-12-28)
- [9] 国立国会図書館: Web NDL Authorities, 入手先 (<http://id.ndl.go.jp/auth/ndla>) (参照 2015-12-28)